





## 対 IS 攻撃と増え続ける国内避難民 サッカースタジアムも避難民キャンプに！



イラクでは、モスルが「イスラム国 (IS)」に制圧され 2 年がたちました。多くの避難民がいまだに戻れません。最近モスル奪還作戦が始まり、アルビルの空港にも、米軍の輸送機、戦闘機が配備されて、モスル近郊への空爆が続いています。モスル市内まで本格的に攻撃が進むと、新たに 150 万人もの避難民が出るのではないかと予測され、今までの 340 万人に加えると 500 万近くの人々が避難民になると予測されています。

JIM-NET は最近できた避難民キャンプの一つ、デバガキャンプを訪問し、パンや医薬品などを届けています。キャンプの設備

は悪く、50℃を超える炎天下でテントも足りていません。2 年間「イスラム国」支配のもとで暮らしていたため、男性は「兵士だったり、洗脳されていたりしないだろうか」という検査を受けなくてはなりません。市内でテロを起こす可能性もあるということで、彼らは一歩もキャンプから出られません。

7 月に入り、1 万人ほどだった避難民は 2 万人になり、8 月になると 4 万人を超えました。町にあったサッカースタジアムも避難民キャンプとして使用されています。

先日、薬を届けると、ぐったりとして嘔吐している子どもの背中を心配そうにさすお母さんの姿がありました。安全な水が足りておらず、下痢を起こす子どもたちも多いとのことでした。

また、キャンプ内には小児がんの子どもたちもいます。一人は、市内の JIM-NET が支援しているナナカリー病院に通うことができていますが、末期がんで治療の効果もあまり出ていないとのこと。もう一人の子は、いまだにキャンプから病院に来れない状況です。JIM-NET はキャンプマネジメントを行っている警察官らと交渉して、病院へ来る許可を出すようお願いしているところです。

JIM-NET は今後も医療を中心に支援を続けます。イラク国内避難民支援に、是非ご協力をお願いします。

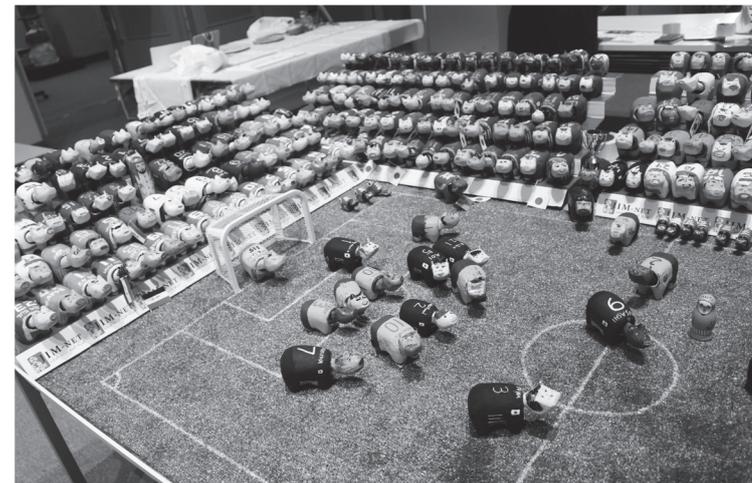
## サカベコ・スタジアム！

福島県の民芸品「赤べこ」にサッカーのユニフォームをペイントした「サカベコ (サッカーをするべこ)」。リオ・オリンピックの出場チームを揃えようと、いろいろな方に絵付けをお願いしました。

5 月に佐藤事務局長がスウェーデン、デンマーク、ドイツのイラク・シリア難民を訪問した際、難民の子どもたちにサカベコを塗ってもらいました。その中には昨年、イラクから山を越え、海を越えてドイツに辿り着いた白血病の少女、イマーンもいました。元気な様子で絵筆を手にして、サカベコを塗ってくれました。



大泉町の子どもたち。「サカベコ」大人気、大賑わい！



ナイジェリアチームは、佐藤自ら都内のナイジェリアレストランを探し出し、オーナーのエソギエさんに絵付けをお願いしました。ところが、気づけば肝心の開催国・ブラジルチームがありません。急遽、群馬県にある日系ブラジル人タウン、大泉町へ駆けつけました。ブラジルやペルーから来た子どもたちを支える NPO 法人「NO BORDERS」のご協力により、15 名ほどの小学校低学年の子どもたちが思い思いの絵付けをして「サカベコ！サカベコ！」と、大騒ぎとなりました。

こうして、出来上がった個性豊かなサカベコを並べ、立派な「サカベコ・スタジアム」が完成しました。

# シリア難民障害者が健康に生活するために

～リハビリテーション技術向上研修を実施しました～

福田直美（JIM-NET ヨルダン事務所長）

6年目に入ったシリア紛争で190万人以上が負傷したと言われており、その影響で手や足を切断せざるをえなかったり、脊椎損傷による下半身不随など重度の障害者となった人もいます。また、病気で身体的に不自由があったり、生まれつき障害のある難民もいます。特に最近障害者となった人々は、適切なリハビリテーションを受けられなければ障害が重度化してしまう可能性もあります。

そういった人々に対し、より効果的にリハビリテーションが提供されるよう、JIM-NETはシリア人、ヨルダン人理学療法士、作業療法士、看護師などを対象に、外務省「日本NGO連携無償資金」の支援を受け研修を実施しています。8月には日本人作業療法士の山本清治さんを講師に、技術向上研修が実施されました。

## ＊障害者と家族への指導

ヨルダンにおいて、負傷した人や障害のある人によく見られるのが、ベッドでの生活が長くなったり長時間体を動かさないことによって発生する「廃用症候群」と呼ばれる症状です。身体的な面においては、床ずれ、むくみ、筋力低下や骨粗しょう症、関節の曲げ伸ばしができなくなってしまう症状なども含まれます。そういった症状についてリハビリテーション従事者が原因と対処法を正しく理解し、患者さん個人や介助を行う家族に指導できるようになることが重要になります。

研修では、実際に重度の火傷により手首や手の関節周辺の組織が収縮してしまった患者さんの例を用いて症状を分析し、目標を設定し、それに向けて必要なリハビリテーションについて考えていくという作業を考えていきました。

## ＊「手づくり」で工夫を

また、特にシリア難民障害者にとっては、様々な「物資の不足」が日々の生活を困難にしています。通常、車椅子などの器具やリハビリテーションに使用する機材は高額で、自分で購入することは困難です。

例えば、古くなって座面がたるんでしまった車椅子は、座る姿



テーピング方法の実技演習（2016年8月11日）

勢を不安定にし、障害の悪化につながりかねません。難民の中には、体のサイズに合っていない車椅子に乗っている人もいます。そういった場合は、身近にある段ボールやマットレスのスポンジなどを組み合わせて積み重ね、座面を修正することができます。また、温熱療法に使用されるホットパックは医療品として購入すると高額ですが、密封できるポリ袋に水でふやかしたオムツを入れて袋ごとお湯につけておくと、しばらく保温効果が続きホットパックの代用品になります。

実際にそれらを作ってみる作業を通して、参加者は、物資が不足していても工夫をすることで障害者にとって良い環境をつくることができるということを学んでいきました。

今回の研修を受けた参加者が今後それぞれの現場で、障害者とその家族とともに身体状態の改善や維持に取り組み、ひいては障害者が外に出る機会が増えていくよう、JIM-NETは今後も、リハビリテーション従事者の技術向上に取り組んでまいります。

## シリア難民負傷者・障害者のための活動にご協力ください



郵便振替口座 00540-2-94945

加入者名 日本イラク医療ネット

備考欄に「難民支援（ヨルダン）」とご記入下さい

たとえば

1,000円で2人の障害者にリハビリテーションを提供することができます  
5,000円で約10人の障害者が文化／スポーツ活動に参加できます

# 光を世界へ～すべては愛だ～

ウォン・ウィンツァン (ピアニスト・作曲家)



ピアニスト・作曲家のウォン・ウィンツァンと申します。あるイベントで佐藤真紀さんにお会いし、JIM-NETの活動を知りました。それ以来、夫婦で注目しています。

世界には命の危険や暴力に晒されていく国々が、未だに沢山あります。戦争の犠牲になるのはいつの時代も弱者です。戦争が終結したといえ、政府には国民への援助能力もありません。そんな中で、まだ余裕のある世界の人々からの援助がどれだけ重要かれません。

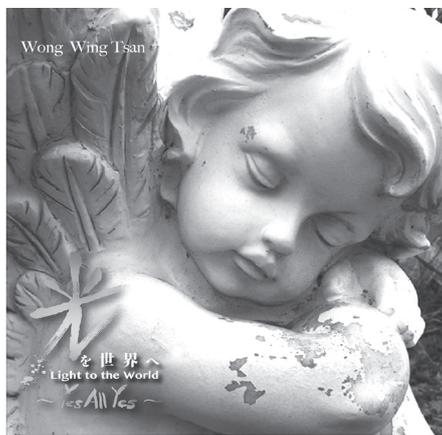
これからの時代、相互扶助、助け合うことが必須になってきます。グローバリズムが進み、国内でも貧富の格差が顕著になってきました。国は緊縮財政を余儀なくし、福祉や援助がおぼつかなくなっています。結局私達が自ら立ち上がって、助け合うしかないのです。そんな中でJIM-NETの活動は私達の未来のあるべき雛形を提供していると思います。

今年の6月、私たちはCD「光を世界へ」をリリースしました。私の音楽人生で初めて作詞をした曲です。私は「光を世界へ」の歌詞に「すべては愛だ」と書きました。人類は愛に支えられて、

ようやくここまで繁栄してきたのではないのでしょうか。そして、私たち人類は、より良い世界、より愛し合える世界を実現しようと、常に試み続けている。視点を変えるなら、この世界は愛に溢れている。そして、皆が幸せになれば自分も幸せになり、自分が幸せになれば周りの人達へも幸せにすることが出来る。愛しあうということは、お互いに存在を承認しあい、より良く繋がり、より良く生きようとするのを認め合うこと。自愛と他愛は同じこと。私は「光を世界へ」の歌詞を書きながら、そのように強く思ったのでした。

このCD「光を世界へ」の収益はすべて東南アジアや中東の子ども達を支援している4つのNGO (JIM-NET、JVC、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー、国境なきアーティストたち) に送られます。

さて、来る11月19日のJIM-NETのイベントに出演させていただくことになりました。皆さんにお会いするのを今から楽しみにしています。



## 「光を世界へ～Yes All Yes～」 参加アーティスト

☆ 作詞・作曲・編曲・プロデュース：ウォン・ウィンツァン

[ヴォーカル] ☆ 大塚まさじ ☆ 鈴木重子 ☆ 及川恒平 ☆ 渡辺真知子 ☆ 内田達也

[コーラス] ☆ 東京女声合唱団 (TLC) ☆ The Voices of Japan (VOJA)

☆ ウォン・ウィンツァン [ピアノ&シンセサイザー] ☆ 永田真毅 [ドラムス]

☆ 松本花奈 [ハーブ] ☆ ウォン美音志 [ギター] ☆ Special thanks to 湯川れい子

制作・発売：サトワミュージック

12cm Single CD (オリジナルソング+カラオケ 2 takes 3曲収録)

税抜本体価格：1000円 / 税込定価：1080円

右記 URL から申し込みができます：<http://www.satowa-music.com/cd/cd-yesallyes.html>

## ウォン・ウィンツァンさん、チョコ募金キックオフ・チャリティコンサートに出演されます！ 2017 チョコ募金キックオフ 「光を世界へ」

日時：2016年11月19日 (土) 18:30 (開場/予定)

出演：ウォン・ウィンツァンさん(ピアニスト)、斉藤とも子さん(俳優)、鎌田實 (JIM-NET 代表理事) ほか

会場：南大塚ホール (定員 267名) 〒170-0005 東京都豊島区南大塚 2-36-1

JR 山手線大塚駅南口下車 徒歩約5分 都電荒川線「大塚駅前」下車 徒歩約5分

地下鉄丸の内線新大塚駅下車 徒歩約8分

★参加費、プログラムなどは調整中ですが、随時 JIM-NET 公式ホームページ及び Facebook でお知らせいたします。どうぞ楽しみに！

<http://jim-net.org/>

# 難民の日に考える「シリア・イラク・福島」

国連は、6月20日を世界難民の日と定め、難民の保護と支援に対する理解を深めるように促しています。

難民とは、国を追われた人を指し、第三国定住のための特別な保護や支援が必要です。一方、内戦や自然災害などで、国内で避難せざるを得ない人たちのことを国内避難民（IDP）と呼びます。そういった人たちに対しても国際的な支援が必要で、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）も、近年では、難民、国内避難民の両方を支援対象にしています。

JIM-NETが支援しているのは、シリア難民と、イラクではISの支配・占領から避難してきた国内避難民です。そして福島原発事故で避難した人々も国内避難民と位置付けることができます。故郷を離れ、コミュニティが分断され、先が見えない避難生活を続けているという共通点があります。

JIM-NETは今年6月19日、立教大学キリスト教学科と共催で【難民の日に考える「シリア・イラク・福島」】を企画。ゲストに松崎康弘さん（NPO法人いわきオリーブプロジェクト理事長：写真右）と安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト：写真左）をお招きし、代表理事の鎌田實と事務局長の佐藤真紀が加わりトークイベントを開催しました（会場：立教大学12号館）。

松崎さんはJIM-NETの福島事業、安田さんは中東の取材でJIM-NETに多大なご協力をいただいています。トークでは1) 目の前の難民をどう支援するか 2) 難民を生む根本的な原因をどうするか—という2つの大きな課題を提示して話しあいました。シリア・イラクと福島の人々の「困難な状況にあってもお客をもてなす温かさ」などという共通点に触れながら、「戦争や原発は分断を生む」「避難者と避難先とのあつれき」という状況をどう変えていくか、「困難な状況にある人々を忘れないために『フック（とっかかり）』をつくり、発信してゆく」ことが大事ではないか…と議論が盛り上がりました。



その「フック」をつくるために、松崎さん、安田さんはユニークなプロジェクトをそれぞれ立ち上げています。ここで各プロジェクトについて、ご紹介します。

（安田さんが頭につけているのは、いわきのオリーブで作った冠です）

## 数字でみる難民・国内避難民問題

- 2015年 ドイツが受け入れた難民・移民 約110万人
- 2015年 日本で難民申請した人 7,586人  
内 27人が認定（法務省のサイトより）
- シリア紛争発生（2011年3月）から5年の間に約480万人が国外に避難を余儀なくされているほか、国内避難民も約660万人
- イラク国内避難民 約330万人（2016年5月）
- イラク国内のシリア難民 約24万6千人（2016年6月）
- 福島県から内外に避難した人約16万5千人（2011年5月）  
--> 約9万人（2016年7月）（福島県のサイトより）

※難民・国内避難民のデータはUNHCRのサイトより

## 松崎康弘さんのプロジェクト

いわきの復興のシンボルとして、オリーブの冠をオリンピック・パラリンピックに届けたい！

### 【NPO法人いわきオリーブプロジェクト ホームページより】

オリーブプロジェクトは、耕作放棄地を農地として活用することなどで「環境と調和した農業づくり」「産業としての農業づくり」、その新特産物による搾油、加工商品開発によって「地域ブランド」づくり、将来は観光資源としても事業を生かし、いわきの地域活性化につなげることを目的としています。

いわきの土壌にあった品種選定や栽培技術を農家と共同研究し、さらにオリーブオイルによる新商品開発、販路開拓を先行的に試験加工を通して研究しています。いわき地域の農業の衰退、地域産品の弱さを解決するため、商・工・観光・情報・福祉など業種を超えた連携による産業創出を目指しています。

### ◆これまでの経緯

福島県は、3.11の震災前から、耕作放棄地面積全国一のありがたかない称号が与えられていた県です。そんな中で、松崎康弘

氏（いわき食彩館株式会社・代表取締役）が中心となり、農商工連携の手法に基づき地域産業六次化をテーマとして試験栽培を開始したのが、「オリーブ」でした。



「いわきオリーブプロジェクト研究会（現NPO法人）」は2009年にさまざまな企業・NPO・個人が参加して発足しました。その後、2011年3月の東日本大震災・福島原発事故による混乱を乗り越えて、内閣府の起業資金を得てハウスでの育苗事業を開始し、その改めでの船出を祝うように、いわき市21世紀の森に4本のオリーブ記念植樹を実現。2015年秋に、収穫したオリーブの実の搾油に初めて成功しました。※オリーブは放射能をほとんど吸収しない性質があり、絞った油も放射能は検出されませんでした。

#### ◆「いわきオリーブ基金」参加のお願い

いわきオリーブプロジェクトでは、東日本大震災後、全国のボランティアの皆さんの応援も受けて、復興のシンボルとしてオリーブを育ててきました。しかし、今、いわきではオリーブ畑の用地が不足しており、せっかく育てたオリーブの若木を植えることができません。そこで、若木を植える土地を確保するために、また、オリーブオイルの搾油加工場設置のために「オリーブ基金」を始めました。「オリーブの畑を広げよう。そしてオリーブの森をいわきに作ろう」と、「いわきオリーブプロジェクト」は基金への参加者を募集中です。

#### 【申し込みをするには】

まず、下記に電話またはFAXでご連絡ください。

「NPO いわきオリーブ プロジェクト」

電話：0246-23-3447(090-6225-9833) FAX：0246-23-3448

(いわき食彩館株式会社スカイストア内 <http://www.sky-store.jp/>)

HPでも詳しく説明しています。<http://iwaki-olive.com/>

★一口3000円からお申し込みできます。

オリーブの若木を贈呈（1口につきオリーブ1鉢）します。

発送をご希望の方は、別途送料（1鉢につき600円）を申し受けます。また、オリーブの若木が不要の方（ご寄附）も承ります。

数年後、育ったオリーブの木をいわきの森へ！いわきに戻してもOK。ご自宅でオリーブを育て続けることもできます。

#### ◆東京オリンピック・パラリンピックにオリーブの冠を！

来たる2020年、世界中の皆さんから寄せられた東日本大震災の復興支援に対する感謝の意をこめて、参加アスリートの皆様にオリーブの枝葉で作った冠を贈呈しようという活動です。

オリーブは「平和、復興・繁・愛」の象徴。その冠は「勝利の誉れ」という意味があり、古代オリンピックから受け継がれてきました。2015年2月のいわきサンシャインマラソンでは、多くのボランティアの皆さんに冠を作っていただき、選手と大会関係者に贈呈。福島農業復興とオリンピックを結ぶ熱い思いで盛り上がりました。

今回のいわきオリーブ基金に賛同し若木を購入いただいた方には、2020年にご自宅で育てたオリーブの若木の枝を剪定し、その枝葉で東京オリンピック・パラリンピック用の冠を作っていただけだと考えております。

★JIM-NET 高田馬場事務所でも、ベランダでオリーブの木を育てています！

#### 安田菜津紀さんのプロジェクト

### VR（バーチャル・リアリティ）で、開発途上国の暮らしを日本の子どもたちへリアルに伝えたい！

「セカイ・メディアラボ事務局」は、『物乞う仏陀』や『絶対貧困』などの著作で知られる作家の石井光太さん、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんらが発案して立ち上げたグループです。手がけるのは、今話題の最新メディア「VR（バーチャル・リアリティ）」を使った映像制作。テーマは「開発途上国の生活をリアルに感じてみよう！」です。

VRとは、360度動画を撮影できる特殊なカメラで撮影した動画を編集し、スマートフォンやタブレットで再生すれば、まるでその場にいるかのような立体映像を体験できるシステムです。専用のゴーグル（ヘッドセット：写真）にスマートフォンを挟んで頭に装着して映像を再生すると、前後左右上下の映像が顔を向けた方向そのまま、例えば上を向けば空、下を向けば地面というように、現実感を伴って目の前に再現されます。

2016年は「VR元年」といわれ、新たなメディアのツールとしてマスコミでも注目されています。この技術を使って、小学校から高校向けの国際理解教育の映像教材を作成し、「開発途上国にも、私たちが変わらない『日常』があることを伝える」ことがこのプロジェクトの目的です。その最初の撮影場所としてイラクが選ばれ、JIM-NETが協力することになりました。普段JIM-NETが活動しているイラク現地の人々や風景が、立体映像で再現され、日本の子どもたちに見てもらえる素晴らしい機会です。

機材・撮影・編集などに多大な費用がかかるため、インターネットのクラウドファンディングサイト「READYFOR」で資金500万円を募っています。

#### 【「READYFOR」サイト挨拶文より】

セカイ・メディアラボのメンバーは、これまでそれぞれ途上国に何度も足を運び、さまざまな形で発信を続けてきました。でも日本のメディアでは、貧しさや秘境だけが強調されて表現されてしまうことが多いことに違和感を覚えていたのです。

日本では「総合学習の時間」などを使って、国際理解教育を行っている学校はたくさんあります。しかし「遠い国のことをどう伝えていけばいいのか戸惑うことがある」、「実感が持てるような教材が少ない」という現場からの声も耳にします

議論に議論を重ね、行き着いたのが、VR（バーチャル・リアリティ）を使った映像制作でした。日本のたくさんの子どもたちが、途上国の生活をリアルに感じることができる。そんな映像づくりへのご協力をお願いしたいと思っています！

◆セカイ・メディアラボ事務局「READYFOR?」サイトのURLはこちら：<https://readyfor.jp/projects/sekaimedialabo>



※ご協力頂いた方には、金額に応じてリターン（お礼）が進呈されます。資金調達期限は10月7日（金）午前11時。それまでに資金が集まらないとプロジェクト成立は難しくなります。

イラク国内避難民となっているヤジディ教徒の子どもたち。  
2016年1月9日 ©Natsuki Yasuda

## 鎌田代表のつぶやき～「永さん、お世話になりました」

7月7日、何となく気になって、ご自宅に電話をすると、永六輔さん、あなたは息を引き取った直後でした。「カマちゃん、逝くよ」と声をかけてくれたのでしょうか。

ご家族にお電話をもらい、お別れをさせていただきました。穏やかなお顔でした。シャイなあなたが浮かべる、恥ずかしそうな笑顔に見えました。「人生、面白かったよ」と言っているようでした。

あなたは病院が嫌いでした。一泊入院の間ドックに行ったのに、一つ一つ検査を拒否し、結局やったのは身長と体重測定だけ。有名な不良患者でした。

そんな病院嫌いの永さんが、「諏訪中央病院は病院らしくなくていい」とほめてくださいました。講演で近くまで来ると、諏訪中央病院でミニ講演を開いてくれました。

永さんの体を心配するご家族の依頼を受けて、ふらりと病院に寄ってもらった際、「ついで」を装って、検査をさせてもらったこともありましたね。

6年前、パーキンソン病が見つかりました。ご自分のラジオ番組で、パーキンソン病という病気について、わかりやすく伝えてくれました。全国に十数万人いるパーキンソン病の方々は、どれほど心強かったでしょう。いつも、苦しんでいる人の立場になる人でした。

しばらくして前立腺がんも見つかりました。「手術はしない」と言い張り、かろうじて、ホルモン療法を受けることは了解してくれました。女性ホルモンを使う治療を受け、「ますます男オバサンになった」とラジオで自慢していましたね。転んでもただでは起きない人でした。

2010年は、本当に転んで救急車で運ばれました。ご家族から、せん妄を起こしたと聞きました。一時的に意識が混乱し、「しゃべるのをやめなくなってしまった」と聞いたときには、永さんらしいなと思い、すみません、笑ってしまいました。一晩中ラジオ放送をしているつもりだったのですね。

そんな状態を経験しながら、ご自分の老いや病も俎上に載せて、ラジオで語り続けました。病院から生放送したこともありました。

ぼくが、最後に永さんの番組に出ささせていただいたのは、今年1月18日。JIM-NETが行っている「チョコ募金」を応援してくれました。お元気だった頃は、イベントにも来てくださいました。いつもみんなを笑わせてくれました。会場の空気を変える名人でした。最後には段ボールで募金を集めてくれました。永さん、あなたはいつも温かかったです。



2014年2月19日(水)『それでも、私は憎まない』著者 イゼルディン・アブレライシユ医師・来日記念講演会で永六輔さん&鎌田代表のトーク。

前立腺がんが脊髄に広がっており、とても大変だったと思います。頑張るのが嫌いな永さんが、よく頑張っていました。

4月、入院先の病院をお訪ねしました。ご家族は、永さんの意思を尊重し、大好きな家へ帰したいと思っていました。ほとんど食べられなくなっていました。栄養を点滴できるように、ポートという点滴の入口を設置させてもらえないか、と永さんに相談に行ったのでした。

永さんは「よく来た」とニコニコ笑って、「忙しい人だから、早く帰ってもらおうように」と気遣ってくれました。ポートを置くことも納得してくれました。退院後、往診してくれるドクターや看護師も決まりました。

最後はご家族といい時間を過ごしたようですね。亡くなる前の晩、起き上がってベッドの縁にしっかり座り、スルメをしゃぶって、みんなを驚かせました。その後は、好きなアイスクャンディーをなめて「おいしいね」と言ったそうです。

「自分の命は自分で決める」「無理な治療は受けたくない」と言い続けた永さん。最後まで永さんらしい生き方でした。

長い間お世話になりました。平和を守ること、弱い人の立場に立つことなど、たくさんのことを教えてもらいました。

永さんにはとても及びませんが、日本の空気がよどみそうになったら、空気をかき回したり、空気を入れ替える努力をしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

(毎日新聞 2016年8月21日 東京朝刊「さあこれからだ」転載)

※永六輔さんはJIM-NETの活動に深い関心を寄せられ、毎年「チョコ募金」の時期にはラジオで紹介してくださいました。その日は決まってチョコの申し込み電話が鳴りやみませんでした。大変お世話になり、感謝の念にたえません。謹んで哀悼の意を表します。(事務局より)

### 【報告】JIM-NET 役員交代のお知らせ

2016年8月25日(木) 特定非営利活動法人日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)の臨時総会が開催され、役員1名(監事)が交代となりましたのでお知らせ致します。

新役員(監事) 村山文彦氏 2016年8月26日 就任

※任期は2017年6月30日まで

旧役員(監事) 栗原 郁氏 2016年8月25日 退任

### ◎ JIM-NET の活動を支えてください。

- ・郵便振替口座：00540-2-94945 加入者名：日本イラク医療ネット
  - ・ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 059 預金種目 当座 店名 ○五九 店(○は漢数字のゼロ) 口座番号 0094945
  - ・サポーター年会費：3000円 ラナ・サポーター年会費：10000円
- 「サポーター」は、イラクのがんの子どもを支援するためのJIM-NETの組織、スタッフを支える応援団です。「ラナ・サポーター」は、サポーターの役割に加え、年会費のうち7,000円が子どもたちの医療支援に充てられます。

URL <http://jim-net.org>

Facebook・Twitterからも随時情報を発信しています！